



平成十八年度

群馬岳連総会報告



群馬県山岳連盟

会長 星野 光

群馬県山岳連盟平成十八年度総会は、五月二十八日(日)午後六時から前橋市上毛会館において開催された。

今年度総会は、役員改選期に当たり、去る五月十日(水)に開催された理事会において推薦された、

平成十八・十九年度役員案が佐藤光由理事長によって報告・提案され、拍手多数によって承認された。

星野光会長(沼田山岳会)をはじめ、羽野順一副会長(境町山の会)、角田三男副会長(高体連登山専門部)、中曽根弘文顧問、小林次郎氏(群馬登高会)ら二十二名の参与、監事の竹山繁男(群馬独峰会)・水野金太郎(沼田山岳会)両氏、そして佐藤光由理事長(群馬ミヤマ山岳会)、小林達也副理事長(高体連登山専門部)、八木原園明氏(群馬ミヤマ山岳会)他常任理事九名、理事三十九名、評議員三十二名、更に、特別会員の須田啓美(群馬県観光局観光国際課

長)・清水邦夫(群馬県教育委員会事務局スポーツ健康課長)の両氏、そして事務局長の女屋等志氏と事務局員の千明政彦氏(ともに群馬ミヤマ山岳会)の再任が承認された。

議事に先立って星野会長が、近年クライミングボードが使われることが多いが、自然の中で錬磨する登山活動を心がけてほしいと挨拶し、また、中曽根弘文顧問に代わって秘書山崎氏が挨拶を行った。

議案審議は平成十七年度事業報告から始まり、女屋事務局長が総会議案書に従って、総務部・編集部・遭難対策部・登山指導部・国体部・海外登山部・自然保護部・事業部・クライミング部の各部にわたって説明を行い、また、表彰受賞等および後援名義承認等について紹介した。引き続き平成十七年度収支決算報告、同基金調書、競技力対策事業収支決算書について説明が行われたが、基金調書に

ついては質問に答えて、遭難防止対策基金と群馬の山基金について説明が付け加えられた。これらについて、水野監事から適正に処理されていたとの監査報告があり、一括して拍手多数で議案書通り承認された。

次に、平成十八年度事業計画、同行事一覧表、また、平成十八年度収支予算、同補助金等の内訳について女屋事務局長から提案され、一括審議されて、これらも議案書通り承認された。

その他の議事では、二〇〇七年岳連カレンダーの作品募集について長谷川勇事業部長から応募協力について要請があり、また、指導委員会総会が四月二十五日に開催され、役員改選の結果、吉田直人委員長、久保田一美・高橋守男・角田守副委員長の新体制が発足したことが阿部源理事から報告され、また、「山岳ぐんま」掲載のための「加盟団体紹介」の原稿について編集部福田純一理事から提出依頼があった。国体部とクライミング部を合わせた競技部設立について、堀越利通クライミング部長の提案があったが、理事会で協議することとした。田中成幸参与から国体山岳競技の選手強化、競技力向上

に予算をかけて力を入れていくべきではないかとの提言があり、これに関連して、国体山岳競技会の方向性と山岳会の登山活動のありかたについて、星野光会長、田中成幸・水野金太郎参与、八木原園明・松永幸雄常任理事らにより熱心な意見が交わされた。総会終了後、岳連懇親会が催され、和やかな歓談の時間が持たれた。

《群馬県山岳連盟参与》(敬称略)

小林次郎(登高会)、石井謙一郎(伊勢崎)、田中成幸(登高会)、洪澤真一(境)、中原正喜(ミヤマ)、月岡武久(星稜)、寺島鎮雄(松井田)、吉田茂作、田中壯佑(鵬翔)、五十嵐一夫(境)、太田忠行(独峰)、池澤常平(青空)、加藤藤夫(富士重工)、堀口貞夫(登高会)、樋口宗平(桐生)、水野金太郎(沼田)、悴田正也(高体連)、富山真(太田)、大澤清(高体連)、中澤安信(伊勢崎)、牛久保拓(伊勢崎)、井下降弘(伊勢崎)

《平成十八年度主要事業計画》

一、遭難防止活動の推進

谷川岳を中心とした地域の遭難防止のためのパトロールの実施、救助活動および救助隊の技術の向上のため訓練を行う。

二、国民体育大会への参加と選手強化

第六十一回国体山岳競技関東ブロック大会（栃木県）への参加と、「にじぎく兵庫国体」（兵庫県）で好成績を目標とする選手強化を推進する。

三、日山協主催行事等への参加と各会の交流

日山協行事等に参加するとともに、各会との交流を深め、研修会等を通じて技術の向上、岳人としてのモラルの高揚を図る。

四、美化活動等市民運動への参加

尾瀬のゴミ持ち帰り運動および谷川岳等の美化活動等の推進に協力する。

五、岳連会報の発行

『山岳ぐんま』の発行を通じ、会員相互の結びつきと啓発を図る。

六、海外登山の実施

第十次群馬岳連ヒマラヤ登山を計画する。

七、第十七回山田昇記念杯登山競争大会の開催

群馬が生んだ登山家、山田昇および三枝照雄両氏の業績を後世まで伝えるため、登山の基本である体力を競い合い、登山の啓蒙、普及、発展の一助とする

登山競争大会を開催する。

期日 九月二十四日（日）

会場 武尊山（利根郡川場村）

八、第二十二回群馬県民の日記念事業「第二十九回県民登山大会」の開催

「県民の日」制定記念事業の一環として、一般県民から参加者を募集し、県民登山大会を開催する。

期日 十月二十二日（日）

会場 沼田市玉原高原、鹿俣山、尼禿山

九、各種研修会及び講習会の開催

指導員会および遭難救助隊が主管して、一般会員を対象に登山技術講習会を開催し、併せて指導員の資質の向上を目的として研修会を開催する。

十、岳連事業収入の確保

岳連の事業・事務を円滑に推進するため、平成十九年版山岳写真カレンダーの制作頒布などの事業を行い、自主財源を確保する。

十一、山岳資料館資料の提供

利根郡みなかみ町に計画されている「山岳資料館」に展示する山岳資料を提供する。

平成十八年度 群馬県民体育大会第二部

山岳競技会報告

群馬岳連国体部 川 島 勉

四月二十二日（土）・二十三日（日）の両日、少年男子・女子、成年男子・女子の国体の県予選が行われた。二十二日は縦走競技が水沢山で、二十三日はクライミング競技がウォールストリートでそれぞれ実施された。参加者は少年男子が三十六名、少年女子が九名、成年男子が八名、女子が六名であった。今年は特に少年男子の参加者が多く、近年、参加者の減少が続いていたので喜ばしい傾向である。

二十二日はまずまずの天候で、男子が先にスタートし、五分後に女子がスタートした。成年男子の齋木毅・松本大両氏の走りは素晴らしく、松本氏が一位になったものの二位齋木氏もその差は僅差であり、今年も本県体での活躍を予感させた。少年男子では渋川高校の剣持好司君がトップ、二位が同じく渋川高校の青木大輔君、三位が沼田高校の田口修一君であった。青木君は昨年関東ブロック予選の選手であり、今年もまた期待が大きい。三位田口君も同様に昨

年の関東ブロック予選の選手であり、しかも昨年の三枝杯の優勝者である。そのほかの選手も健闘し、今後につながる内容であった。少年女子は沼田女子高校勢が上位を占めた中で、高崎工業高校の（たかし）亜美さんが意地の走りを見せた。成年女子では、初出場の武井早紀さんが一位になり、今後大きな戦力となりそうだ。

続く二十三日はクライミング競技が行われた。少年男子では高崎工業高校の白石裕也君が一位、同じく高工の高本憲孝君が二位と高崎工業高校の活躍が目立った。少年女子では、前橋女子高校の長谷川美鈴さんが一年生ながら一位となり、「新星現る」の感があり今後大いに期待できそうだ。二位西山亜里沙さんも経験豊富であり、関東ブロック予選通過の期待が大きいに膨らむ。また、成年女子ではウォールストリートのオーナーである柘植氏の奥さん文代さんが初出場し、縦走競技がなくなる二年後に向けて重要な戦力となるだろう。圧巻は、成年男子の決勝であった。

少数ながら大変レベルの高い予選を通過した選手の中でも、昨年度の国体選手である富澤太郎氏と一昨年まで少年男子の選手として活躍した堀込悟氏との一騎打ち的な様相を呈した。息の詰まるような雰囲気の中二人のクライミングを見守った。結果は僅差で富澤氏が一位となったが、非常にレベルの高いファイナルとなった。

まとめとして、二年後の大分大会からは縦走競技がなくなり、リードクライミングとボルダリングの二種目となり、選手も三名から二名となる。今まで群馬は縦走競技を中心に国体で優秀な成績を収めてきた。齋木・松本両氏の活躍は目を見張るものがあつた。しかし、残念ながら二人の国体での活躍も来年までとなる。群馬の国体強化も今後大きく舵を切らなければならぬ時期にきている。クライミングの競技人口をいかに増やすか、また、ジュニアの育成をどうするか、そして三年後にくる関プロの会場をどうするか等々問題も多い。とりあえず、今年の県予選は無事終了し、大変中身の濃いものであつた。是非関プロを通し、選手たちの本県体での活躍を期待したい。

「登る榛名のキャンプ村」は今何処に？

群馬県高体連登山専門部

委員長 小林 達也

上毛カルタに「登る榛名のキャンプ村」の一枚がある。これは榛名湖畔にあるバンガローやその周辺の施設のことを言うらしいが、その施設がどれほど活用されているのかは与り知らない。十年ほど前には榛名富士の北側にオートキャンプ場がお目見えしたが、こちらは結構、稼働率が高く盛況のようだ。施設も整備され充実しているから、利用料も高めの設定になっているらしい。

オートキャンプにはオートキャンプなりの楽しみがあり、無論否定するものではないが、高校登山部の活動には縁がない。高校登山部にとっての「登る榛名のキャンプ村」とは、まさに「県立大原教育キャンプ場」のことであった。その「県立大原教育キャンプ場」が今春、ついに閉鎖されてしまった。

「県立大原教育キャンプ場」、といつても「ああ、あそこのことか。」

と思い浮かぶ人は数少ないことだろう。榛名富士ロープウェイの山麓駅東側、旅館や土産物屋の更に奥まった所、榛名山沼ノ原にある、粗末な水場とトイレがあるだけの、全く一般には認知されていないキャンプ場である。聞くところによると昨年度の利用件数はわずかに6件だけだったそう。それでは財政支出削減の潮流の中では生き残るのは無理からぬ事かもしれない。

しかし、高校登山部の活動においては、非常に重要な施設である。三年に一度ではあるが県高校総体登山大会の主会場となるからである。その「県立大原教育キャンプ場」は今、水場もトイレも撤去され、植林が計画されているとのこと。二年後、再び榛名山が県高校総体登山大会の会場として巡ってくる時、果たして、利用できるのだろうか。「他の施設もあるのではないか。」という声もあるだろう。

しかし、これまでの大会運営の経験から鑑みて、他の施設は諸々の理由から不十分なのだ。

仕事柄、他県の公営キャンプ場を利用する機会が多い。関東の都県を見ても、まさに「垂涎」の県営キャンプ場を少なくとも一カ所は備えている。保有していない県は……群馬だけ、とは言い過ぎだ

ろうか。かつて、谷川岳マチガ沢の教育キャンプ場が閉鎖された。豪雪やら厳しい自然条件下で施設維持が難しかったのだらうと推察しているが、その結果、群馬を代表する山岳である谷川岳山麓にはキャンプ場は実在していない。赤城山はどうか。前橋市立赤城少年自然の家のキャンプ場はある。し



かし大沼北岸の県営キャンプ場はどうか。妙義山麓はどうか、武尊山麓はどうか、草津白根山麓、日光白根山麓、四阿山麓、浅間山麓、尾瀬はどうか。野反湖には……素晴らしい村営（県営から村営に移管された）キャンプ場はあるが。

保護者の同行しない高校登山部の活動は、自力で背負い上げた物だけで賄い、水は汲むだけ、洗剤は使わず食器は紙で拭き取るだけ。生ゴミはもちろん、ゴミは全て持ち帰る。発電機や電化製品など持ち込むはずもなく、夜遅くまで騒ぐわけでもない。まさにローインパクト、省エネの手本として見習うべきことが数々あると自負している。しかし、如何ともしがたいのがトイレ問題である。「持ち帰り」がコンセンサスとなる日がやがては訪れるのかもしれないが、現状ではキャンプ場施設に頼らざるを得ない。それができないのであれば、山中で宿泊するには、高校生にとっては経済的負担の大きい山小屋や旅館、オートキャンプ場を利用するより他に道はなく、さもなければ人目を忍んでテントを張り、人目を忍んで用を足してはヒンシュクを買う羽目になるだろう。それでは高校登山部は片隅へと追

いやられ、やがては排除され、活動不能に陥ることは明白だ。

しかし今、「偉大なる教師」である自然の中の野外活動、登山活動が、豊かな人間性を育成しようとする青少年健全育成において、その有効性・有用性が高く評価され、認識されつつあるという。欧米においては、「必須科目」として位置づける所もあると聞いている。多種多様なスポーツがある中で、オリンピック種目であるかどうかはその人気の尺度になるケースが多い。また、高額な収入を得るスター選手を生み出すスポーツの人気も依然として高い。残念ながら登山はオリンピックにはなじまないようであるし、高額収入は望むべくもない。だが、「人気」と「金」、それだけがスポーツの価値基準ではないはずであり、ましてや「文化的要素」をも併せ持つ「登山」がその教育的効果において再認識されてしかるべきだと思う。その認識の上で、青少年の野外活動、登山活動の場を保障するため、に、「採算性」ではなく「未来への投資」として、「山岳群馬」の目指す方向として公営キャンプ場施設の確保、拡充を望みたい。

雪上技術講習会に参加して

太田山岳会 三田 治宣

平成十八年度雪上技術講習会が四月二十六日に実施されました。

会場となる谷川岳マチガ沢出合に午前八時集合。指導委員会の方々から挨拶の後、初級(受講者九名。講師は太田山岳会の久保田氏・武井氏、境町山の会の吉田直人氏、ミヤマ山岳会の阿部氏)・中級(受講者六名。講師はアルパインガイドの田中氏・角田氏、桐生山岳会の吉田秀樹氏)に分かれて講習となりました。以下、私が受講した初級の内容と感想を報告します。

午前

① 用具の説明

ピッケル・アイゼン各部の説明と使用方法

② 歩行技術

つば足でキックステップによる、直登・トラバース・方向転換・下り次に右の各動作をアイゼンを履いて実施

③ 滑落停止技術

用具なしで抱え込み停止技術次にピッケルを使用して
仰向け足から・仰向け頭から
うつ伏せ足から・同頭から

更にアイゼンを履いた状況でまたザックを背負った状態で前記の各姿勢からの停止動作

午後

④ 確保支点のつくり方

雪を掘り込んだ支点
ピッケルを埋め込んだ支点
ブッシュを埋め込んだ支点
スタップバックやコンビニの袋を利用した埋め込み支点

⑤ スタンディングアックスビレイにて

肩ガラムの方法を検証
スリングを使ったブルージック
マッシュヤーによる) 仮固定の方法

⑥ 補足

耐風姿勢(利き足を伸ばし、しゃがみ込んだ姿勢でピッケルを刺す)
(午後三時ころ講習終了)

感想

かねてから天気が心配でしたが、当日はうす曇りでまずまずでした。初級者コースは、講師の方の冗談を交えた講義で用語もかみ砕いて説明してくださり、とても判りやすく感じました。終始和気あいあいの雰囲気でしたので、滑落停

止の練習も余計な緊張をすることなく受講生の方々も、大胆かつ華麗な滑落をして、技術を習得していきました。

マチガ沢まで行く途中に、雪崩れている個所があり、帰りはさらにひどくなっていました。講習会より、そこを通過するほうが緊張

しました。

初級者コースは2回目ですが、来期は中級者コースを受けたいと思います。そのためには用語を憶えたり、ロープワーク等、自宅でできる事は自習して身に付けて参加したいと思っています。

山雪滑りの愉しさを

知らざあ言つて

聞かせやしよう

大間々山岳会

福田 純一

浜の真砂の白きより、清きまはゆき峰の雪。その白銀と青空の狭間を滑る愉快さを、貴方も知っちゃあ、みやせんか。

その愉しさの味わいに上手下手とは無関係、上手く滑れることよりも出掛ける我身の幸いと、山に身を置く爽快を尊ぶ我が仲間。味の仕上げはシチュエーション。締めまり雪の快適は勿論に深雪・新雪なんのその、曲がれやしないテクニク、埋まる雪面の抵抗をあてにシュプール一文字。○級の脚前など眼中になく、話題はあの山・あのルート。春風そよぐ昼飯にや、スキイよ

りもويسキイ。

還暦を迎えたT氏など、昨年三月生まれ初めてスキイを履いて、梅雨前までに十日余も出かけ、世辞にも上手たア言えないうがコケてもコケても懲りもせず、皆に「愉しさ」を吹聴する。

世間で多くの人々はスキーとはグレンデで乗るものと思いが、以前を言いやあそもそもは、自然の山で雪滑りが先に在り、その手はじめや練習をする処をグレンデという。脚前に覚えのある岳兄ならばなおのこと、練習ばかりで終わらずにスキイ本来の愉しさと爽快さを味わいに、ひとつ出掛けちゃみやせんか。今や早や、そこやかしこの山からは積雪の知らせが届く候。山雪滑りの愉しさを知ってしまつた者達は、あそこの山々今如何にと気になってオチオチ街にや暮らせない。そんな、白い粉に狂つた奴たあ俺達のことだあ。

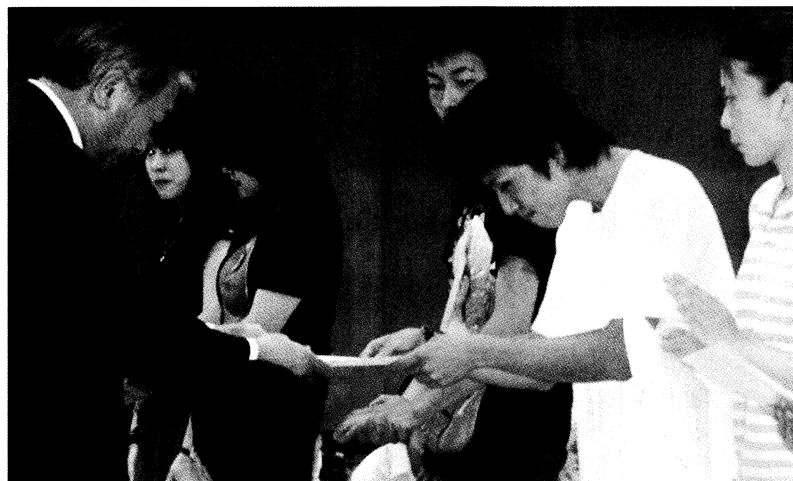
第六十一回国民体育大会 関東ブロック山岳競技会報告

群馬県連国体部 川島 勉

七月二十二日(土)・二十三日

(目)の二日間、国体の関東ブロック予選が行われた。選手は、少年男子が剣持好司(渋川高校)・青木大輔(渋川高校)・白石裕也(高崎工業高校)の三名、少年女子が西山亜里沙(沼田女子高校)・笠原千裕(沼田女子高校)・長谷川美鈴(前橋女子高校)の三名、成年女子は、法領田恵・武井早紀・斎藤きく代の三名である。

まず二十二日にクライミング競技が、今市青少年スポーツセンターにて行われた。午前中に少年女子と成年女子の予選が行われた。同じルート設定で、グレードは11dくらいであろうか? 少年女子がまずオブザベーションを行い、競技が始まる。登り始めが難しく、左の壁から右の壁へのトラバースに苦戦する選手が多い。群馬の西山・長谷川の両選手は、トラバースは難なくこなし、右の壁のハングを越えたあたりで競技を終えた。埼玉が一位、千葉が二位で、群馬



の二人は同じくらいのポイントで総合四位で一日目の競技を終える。三位の東京都との差が僅差なのが悔やまれるが、翌日の縦走に期待がかかる。次に成年女子の予選が行われる。武井は縦走クライマーであるが、クライマーの経験はま

だ浅く、それでも善戦する。斎藤も初めのトラバースをうまく越えたが、その先で競技を終えた。総合六位の成績だ。その後ルートが変更され男子のオブザベーション、そして競技が行われた。縦走クライマーの青木は、まずまずのところで競技を終える。続く白石に期待がかかるが、やや実力を発揮できずに終る。総合成績4位、こちらも縦走に期待を託す。

翌二十三日(日)、梅雨の中休みなのか曇り空で、気温もそれほど高くなくまずまずの天気だ。スタート地点は日光市立東中学校、ゴールは鳴虫山山頂で、距離は約四・八km、標高差は五二五mの登りだけのコースである。計量が行われ次第に緊張が高まる。成年女子、少年男子・女子一斉のスタートだ。少年男子の剣持がいいスタートを切る。ゴール地点に立ち入ることができないのでスタートを見送って競技終了点に移動する。ゴールの山頂からは別ルートで各県ごとにまとまって下山するというこ

選手たちがなかなか姿を現さない。結果がどうなったか、他県の選手や監督から情報を得ようとするが思うようには情報が入ってこ

ない。やがて、やつと群馬の選手達が姿を見せる。まずはお疲れ様。控えの選手達が出迎える。それぞれの選手の順位が次第に分かつてくるが、他県との比較がどうなのか分からない。男子は剣持が2位に入る健闘を見せた。

少年女子は笠原が持病のヘルニアが出たがそれでも完走する。みんなよく頑張ってくれた。期待と不安を抱きつつ閉会式会場へと移動する。しかしなかなか確実な情報が分からないまま閉会式を迎えた。

結果は、成年女子総合成績六位、少年女子三位タイ(ポイント差で国体出場はならず)、少年男子一位で国体出場権をつかむ。今年は、少年女子の出場枠が3で、国体出場の期待が高かったのだが、ほんの僅差で涙をのんだ。しかし各選手が自分の持てる力を発揮し頑張



ってくれた。一方少年男子は関ブ口通過は厳しいと思われていたが、渋川高校の青木・剣持の二人が縦走一位を取る快挙を成し遂げた。クライミングのレベルはやや劣る群馬だけに、縦走が決め手となった。成年女子もクライミングの力が今後はポイントになるだろう。以上のような形で関ブロは終了した。少年男子は本国体に向けて始動している。成年男子と共に好成績をおさめてくれるだろう。

第三回

自然植物観察会 報告

群馬岳連自然保護部

須田 久男



第三回自然植物観察会が、二〇〇六年七月二十三日、尾瀬の自然と植物に関心の深い登山者を集めて開催されました。一般登山者十五名、関係役員十名と参加者は少

なめでしたが、恵まれた充実した観察会となりました。特に植物について齋藤次江氏、野鳥については萩原哲也氏（ともに松井田山岳会）にご説明いただきましたので、

改めて感謝申し上げます。

コースは、大清水登山口を午前七時三十分に出発し、一ノ瀬休憩所、三平峠、尾瀬沼休憩所、大江湿原、小淵沢田代、大江湿原、尾瀬沼休憩所、三平峠、大清水登山口のピストンでしたが、楽しい山行ができたと思っています。時あたかも高山植物

の花の最盛期で、尾瀬沼から大江湿原で観察された花は、ヒオウギアヤメ、ハクサンチドリ、トキソウ、サワラン、オゼヌマアザミ、コバボウシなどで、ニッコウキスゲの黄色は鮮やかでした。また、

大江湿原から小淵沢湿原までの森林帯では野鳥の種類が多く、鳴き声を聞きながら歩きました。小淵沢田代のすっきりした所に飛び出すと、そこは夏の尾瀬とは思えない静かなところで、目の前に日光白根山や周辺の山々がよく見え、

湿原にはインコウカ、タテヤマリンドウ、ヒメシヤクナゲ、ワタスゲなどが群生して咲いているとてもきれいな所でした。そこで昼食をとり自然の美しさを満喫してから帰路につきました。

帰り道は少し雲が出てきました。雨は降らず、私たちも少し早足で下山しました。予定より一時間半も遅れてしまいましたが、天候に恵まれたためか、それとも高山植物の花が素晴らしかったためか、苦情もなく終了することができました。次回をもっとしつかりした計画を立てて、より多くの人に参加して頂き、自然保護への理解を更に深められる楽しい山行の開催を心がけたいと思います。

加盟団体紹介

群馬ミヤマ山岳会

「群馬ミヤマ山岳会」は大隈宏創立会長の命名です。「ミヤマ」は赤城山・榛名山・妙義山のいわゆる上毛三山をさす「三山」でありますが、「御山」とも「深山」とも

「美山」とも書ける、とするのが「山を愛し、人を愛し、己を愛す」を人生哲学とした大隈の山への姿勢でもあり、由来でもあります。その大隈の基本哲学を基本理念として、本会は一九

五二年(昭和二十七年)四月に発足しました。



現在の会員数は四十名で、現役は七名。二〇〇一年のダウラギリ東壁での遭難以降、活動は縮小し、長期の合宿は行えず、週末の個人山行にとどまっているのが現状です。しかし、会の方針であるオールシーズン・オールラウンドの活動は、常々考えています。会

員の三名が遭難対策救助隊で活動し、二〇〇五年の群馬県山岳連盟ナンガバルバット登山隊では三名の会員が頂上に立っています。行事は、秋の裏妙義で行う飯盒祭り、岳連行事への参加などです。

より豊かな山行を実践するため、基礎から自分達で作っているクラブです。佐藤理事長宅で月二回会合を開いています。

連絡先

〒370-0046

高崎市江木町1170

TEL&FAX

027-325-3503

又は

080-1228-1528

E-mail :

cazusada.422.06@docomo.

ne.jp

高 崎 山 岳 会

私たちの山岳会は昭和六年六月にもたれた「高崎山岳倶楽部の創立に関する発起人会」に始まる。

渡辺剛を会長として総勢三十三人で活動を始めた。創立の六月に神津牧場・荒船山、七月に裏妙



高崎山岳倶楽部報

創刊号 表紙



雪上訓練風景

一ノ倉沢 1959年6月

義山山塊、八月には当時あまり知られていない谷川岳に地元の案内人を雇って登山するという時代であった。また市役所と共催で青年団を指導し、四日間かけて尾瀬沼から中禅寺湖を踏破し大いに氣勢を上げている。会員各個人の山行では角落山を中心とする烏川源流域の開拓・ルート整備をし世間に紹介した。更に上信国境走破、積雪期の上越国境や北アルプスで経験と技術を向上させていった。特に丁須の頭の初登攀は高く評価された。

戦時中はわずかな活動にとどまったが、昭和二十二年「高崎山岳会」に名称を改め、地域山岳会として地域住民に正しい登山の啓蒙啓発と普及・遭難防止を図る役割を自覚し、講習・講演会、映画会などの活動をした。

この間、より一層の困難を求め、挑戦するという「アルピニズムの考え」のもとに、先鋭的かつ幅広い登山登山を四季を通じて行い、厳冬の期の一ノ倉沢や幕岩周辺の初登攀をするしたが、昭和三十六年のマチガ沢東南稜、昭和四十年の一ノ倉沢滝沢下部直登ルート、第一スラブ・ドーム中央壁終了後草付から墜落、昭和四十二年八ヶ岳

地獄谷上権現沢での雪崩遭難で会員六名を失い、活動を自粛するに至った。

昭和四十七年、会員の夢はブータンへのライトエクスペディションへととなり、ビザ発給内意まで漕ぎつけた矢先、国王暗殺の政変に計画は頓挫してしまった。

それ以来、通常の山岳会活動をしなが、地域山岳会として市当局と共催という形で定期的に市民ハイキングを行ってきた。このほか当会独自の行事の中にも一般市民の山岳愛好家に参加できる行事を実施することで、多くの人々に山の楽しみ方や新しい登山技術の指導を地道に繰り返し行い、平成十四年には社会体育の普及振興に尽力しているということで、県教育委員会の表彰を受けるなどして今日に至っている。

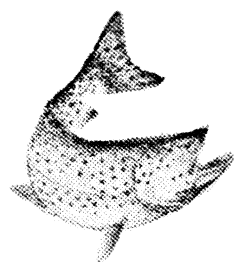
会長Ⅱ黒川篤、理事長Ⅱ新井邦光、理事Ⅱ萩原俊彦、高田昭、事務局Ⅱ阿久澤清子（連絡先、高崎市島野町六八五一、電話〇二七—三四六—四五八六）

味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

沼田市白沢町上古語父（国道120号線） TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星 野 水 産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802

<http://annapurna.jp>

Annapura

総合建設業 空調・衛生・消防設備工事

石原工業株式会社

本社 渋川市有馬164
☎(0279)24-7111(代)

工事部 渋川市赤城町北上野203
☎(0279)56-8111(代)

電話、弱电工事

プモリ電設

〒379-2223
伊勢崎市小泉町252
☎ 0270-62-2012

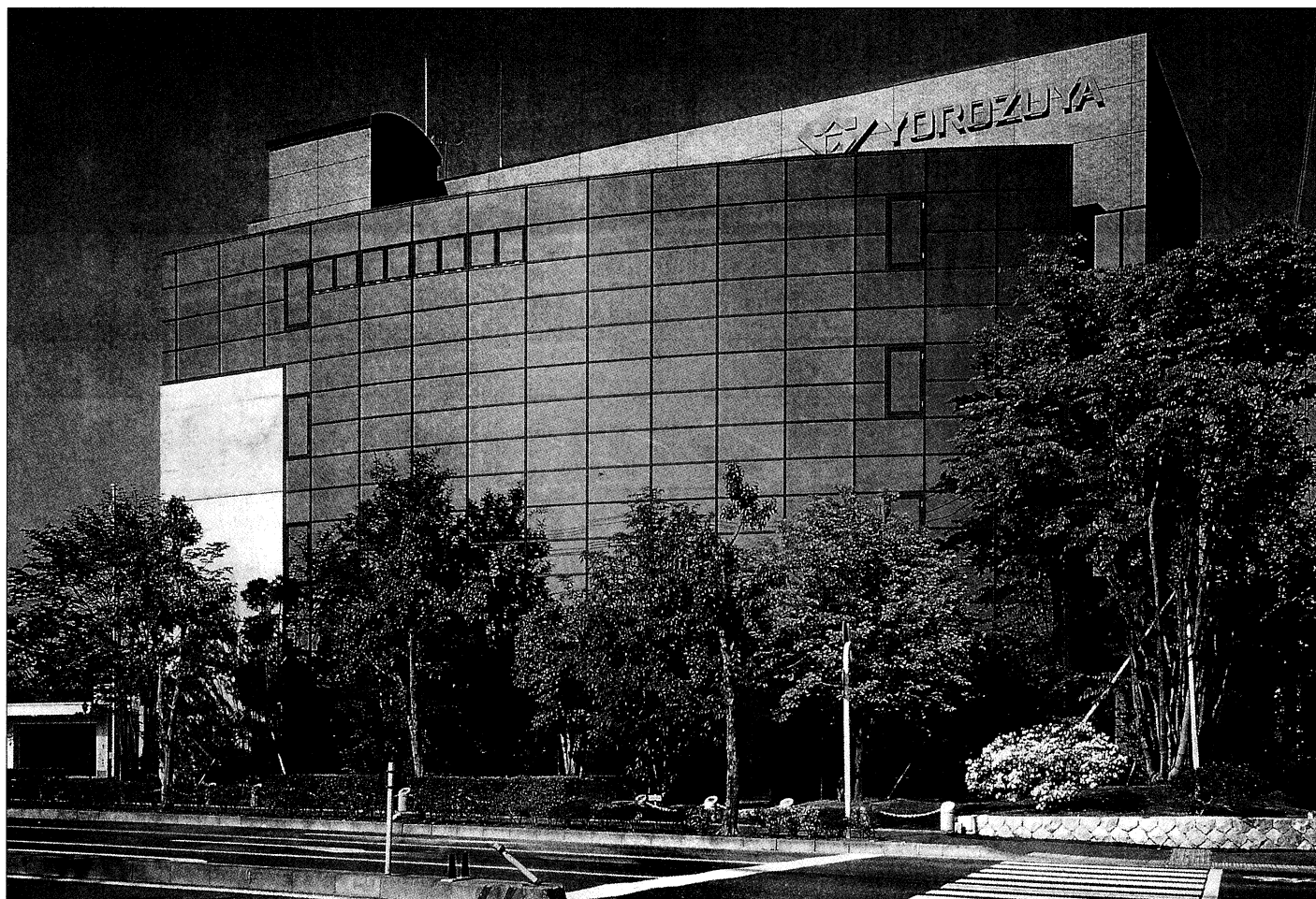


(有) 山とスキーの店 石井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1
TEL 0270-21-8025
FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)
伊勢崎市中心町18-8
TEL 0270-25-0272



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



総合建設業 萬屋建設株式会社

会長 星 野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371
 ■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店 有限会社 丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756
 TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場 建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111
 大楊工場 沼田市利根町大楊187 TEL 0278-56-3682

総合建設業 株式会社 鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5
 TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション 萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
 TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964